

ことばの整理のための学習活動例

「言語事項」に関して、言葉について意識化し、整理する活動のためのアイデアを集めました。JSL 生徒にとって、日々の授業の中でシャワーのように浴び続けている日本語を、さまざまな観点から整理し、確認することはとても重要です。また、自分の母語と日本語を比べることができるという強みを活かし、言語の特徴について考える力を伸ばすことは、言語習得を促す力となります。20分程度の短い時間でできる活動ですから、言葉の整理・確認のための「帯単元」を1日の中に設定し、こうした活動を毎日少しずつ取り上げていくとよいでしょう。

話し方のモデルをさがそう 【音声】【話や文章、文】

◇ねらい

発音の問題は、簡単に矯正できるとはかぎらず、誤りを繰り返し指摘するだけではかえって自信を失わせることにもなる。自分が目標にしたいと思うモデルを探し、意識化することで、単に発音の正しさを問題にするのではなく、全体としての「感じのよい話し方」を考え、身に付けていく動機付けとなる。

◆活動例

- ① テレビで見る人や身の回りの人の中で、話し方が好きだと思う人を一人さがし、ビデオか音声テープで話しているところを録音してくる。
- ② なぜ、その人の話し方が好きか、またどんなところが好きかを考える。
- ③ 録音を聞きながら、その人の発音や、間の取り方、声の調子、スピード、(ビデオの場合は表情、姿勢、なども含めてよい) など、話し方の特徴について話し合いながら、意識化していく。

あなたも言語学者 【単語・文法】

◇ねらい

在籍学級で、教科書に出てくる口語文法の学習項目を取り上げるときに、生徒の母語の例を出させて、比較対照させてみる。その際、表面的な指摘にとどまらないよう、事前に取り出しクラスで、生徒自身が自分の母語の特徴を客観的にとらえられるような準備が必要であろう。

教師の側も生徒の母語の言語的特徴について、ある程度予備知識をもてるよう、調べの必要がある。

◆活動例

動詞の活用、過去の言い方、単語の意味範疇の違い（例：rice—米、ご飯）など

助詞を使って文章を作ろう 【単語・文法】

◇ねらい

J S L 生徒にとって、最後まで頭を悩ますのが助詞の用法である。ここではちょっとした時間の空きを利用して、助詞を使って遊びながら文章を作ってみることで助詞の使い方に慣れ、日本語の作文への興味を高めるようにする。

◆活動例

Aカード（格助詞）・Bカード（副助詞）・Cカード（接続助詞）・Dカード（終助詞）・の中から一枚ずつカードを引き、文章シートに書き写して、その助詞に合う文章を考えて書く。

★多少の間違いはおおめに見る。

★指導者と生徒が交互にカードを引いて文章を作っていくことも可。

（助詞カード）

例 Aカード（格助詞） 名刺大

格助詞
と
（母語での意味）

Aカード（格助詞） や、で、が、を、に、へ、の、より、から、と

Bカード（副助詞） なり、だけ、まで、ぐらい、やら、ほど、も、さえ、など、だって、とか、ばかり、でも、しか、か、きり、こそ、くらい、は

Cカード（接続助詞） のに、だり、ば、けれども、ても、なり、ので、と、から、でも、し、が、けれど、つつ、たり、て、ながら、で

Dカード（終助詞） ね、な、こと、よ、ぞ、ね、か、の、わ、さ、なあ、とも、や、ぜ

単語の使い方

【単語・文法】【語句】

◇ねらい

単語を覚えていくときに、一つ一つの単語をばらばらに頭に詰め込むのではなく、その単語に関係する言葉とのセットで覚えることを意識させる。

ある単語が使われるときに、どんな動詞や助詞が共にあらわれるのかを意識することで、語彙知識を深いものにし、知っているだけではなく文の中で使える力を付ける。生徒が知っているものを挙げていったり、辞書を調べて整理してもよい。

◆活動例

「責任」 責任がある、
↑ 責任を持つ、責任をとる、責任を果たす、責任を負う、
↓ 責任を逃れる、責任を転嫁する…など
無責任

★ワークシートやカードなどに整理し、新しい表現を学んだときに付け足していけるようにするとよい。

ことば遊びをしよう

【語彙】

◇ねらい

しりとりをしたり、回文、折り句などを作ったり、絵文字クイズや言葉当てゲームなどを行い、日本語に親しませると共に、語彙を豊かにさせる。これらの学習活動は、辞書を引く習慣作りにもつながる。

◆活動例

クイズ、なぞなぞ、絵文字、しりとり、言葉当てゲームなど

今日の一言

【語彙】

◇ねらい

継続的な聴写活動を生かして、格言、名言に触れる。語彙語句学習や日本語の表現学習、辞書を引く習慣作りにもなる。様々な国の様々な職業の人の言葉に触れることで見識を広げたり、心に残った言葉を暗記したりして人間性を豊かにすることにもつながると考えられる。

◆活動例

教師が「名言・格言」集の中から毎時間一つ、「今日の一言」を言う。生徒はそれを

聞き取って、ワークシートに書く。分からない漢字や知らない言葉は辞書を引いて調べる。

文の並べ替え 【話や文章、文】

◇ねらい

談話レベルのテキスト（話し言葉でも書き言葉でも）から、連続する3～4つの文を取り出し、順番をばらばらにして提示。生徒はそれをもとの順序に復元する。並べ替えの根拠についても説明できるとよい。

生徒の日本語レベルに合わせて、テキストの難易度を調整する必要がある。

◆活動例

○準備 一繋がりな文章を、単文に分けてばらばらに並べ、記号をふる。

元の文章：「ボランティア活動は大切だが、そんな大変なことが自分にできるだろうか。私は今までそう思っていた。しかし、調べるうちに自分の考えの誤りに気付いた。」

生徒に提示する文：

A しかし、調べるうちに自分の考えの誤りに気付いた。

B 私は今までそう思っていた。

C ボランティア活動は大切だが、そんな大変なことが自分にできるだろうか。

○生徒はA～Cの単文を意味が通るように並べ替える。

なぜ、その順番にしたか、理由を説明する。

*問題作成のための参考図書例：『文章能力検定試験問題集』

今日のトピック 【話や文章、文】

◇ねらい

特定の話題や内容について、筋道をたてて、まとまりのある話をする力は、対話中心の日常会話だけではなかなか身に付きにくい。自分が興味を持った身近な話題について、他人に紹介するという活動を繰り返していくことで、話の始め方、終わり方、個々の内容の繋がりや全体の構成、公的な話し方などについて意識を高める。生徒の興味・関心を重視し、話したいという気持ちが次につながるよう、聞き手から反応が返ってくるようにする工夫が大切である。最初は無理をせず、ごく短いものから始める。

◆活動例

① 話し手は、最近自分がよく見聞きし、気になっているトピックを一つ取り上げ、

それについて簡単に紹介する。トピックは、人名・事件・現象・ものの名前等何でもよい。

② 聞き手は、説明を聞きながらメモを取り、必ず質問をする。

★慣れるまでは、「今日は〇〇について話します。〇〇というのは……人/もの/のことです。……」のようにパターンを示して固定するなどの工夫をする。

スピーチ ～今日のニュースから～

【話や文章、文】

《ねらい》

毎日、授業の始めにニュースを素材にしたスピーチをすることで、以下のような力を育てる。

- ニュースを見る習慣を付ける。
- 要点を聞き取ってメモする。
- ニュースを再構成して分かりやすく相手に伝える。
- 内容を性格に聞き取り、自分なりの感想を持つ。

《活動例》

- ①話し手側は、朝、新聞やテレビで知ったニュースを聞き手に分かりやすく伝え、それに対する自分の感想を発表する。
- ②聞き手側は、スピーチ内容の要点を書き留める。
- ③話し手側は、聞き手から質問を受ける。
- ④聞き手側はそのスピーチに対する一言コメントを書く。さらに、担当者宛に、気付いたことや感想など、自由にメッセージを書き、本人に渡す。

伝言メモを書こう

【言語生活】

《ねらい》

口頭でのやりとりは流暢で、相手の話はきちんと分かっていても、要点を簡単なメモにすることはなかなか困難がある場合が多い。話し言葉をそのまま写すのではなく、メモという書き言葉の一つの言語形式に関する知識が必要である。伝言メモという簡単で、日常生活で応用可能な活動を使って、話し言葉と書き言葉のちがいを意識し、要点を簡潔に書くことを学ぶ。

《活動例》

電話で伝言をたのむロールプレイ（校外学習の持ち物、週末の待ち合わせ予定の変更など、具体的にイメージできる状況を設定）

- ①ペアになり、一人(A)が「伝言内容カード」を見て、相手(B)に口頭でその内容を伝える
- ②Aから聞いた話をBは「伝言メモ用紙」にメモする。
- ★伝言のやりとりの元になった「伝言内容カード」(あらかじめ教師が作成)の表現と、Bが書き込んだ「伝言メモ用紙」とを付き合わせて、自分たちでチェックできるようにするとよい。
- ★メモの形式に慣れるよう、初めは「伝言メモ用紙」にメモの表現形式の枠がある適度できているものを使い、単語や数字だけ入れていけばよいようにしてもよい。慣れたら白紙に自分でメモを作成するようにする。